

BOOK Review

トラブルを未然に防ぐ カルテの書き方

評者 金倉 譲 一般財団法人住友病院院長

本書を手にとったとき、『トラブルを未然に防ぐカルテの書き方』というタイトルに引き込まれました。普段から自分でもカルテの書き方に満足していないからです。序文には、編者の吉村長久氏が6年前に北野病院に病院長として赴任後、カルテ記載に問題のあるケースが多々あることに気づき、カルテ記載の教育・指導が不十分であったことを思い知らされたとあります。そこで、医師と弁護士の両方の肩書をお持ちで、もう一人の編者である山崎祥光氏に「カルテの書き方」の講演を継続的にしていただいたところ、「目からうろこ」の思いをした医師も多く、その反響の大きさから講演内容をまとめ、本書として全国の皆さまに届けることになったのです。

医師にはカルテの記載義務があります。人間の記憶は不確かで、20分後には4割、1時間後には半分以上忘れるとされており、診療したときに遅滞なく記載する必要があります。患者の状態や医療行為を時系列でカルテに記載しておくことにより、次の適切な医療行為が行えるのです。また、カルテは、医学上の資料となるだけでなく、会計上の原本にもなっています。さらに、重要な点は、カルテの記載内容が訴訟での証拠資料となることです。カルテに書いていないことは、事実認定されないのです。医療訴訟の事件数は年間800件を超えており、珍しいことではなくなっています。これらの案件では、和解や判決により6割前後のケースで被告側が何らかの支払いを要する結論が出ています。医療訴訟となった場合、審理

期間は2年を超え、精神的にも肉体的にも疲弊します。

このようにカルテは、臨床面に加え、トラブル回避に重要な意味を持っています。しかし、カルテの記載方法に関する系統だった教育を私たちは受けておりません。多くの方は、臨床実習や卒後臨床研修のときにOJTで学んでいるにすぎないと思います。このようなときに、本書『トラブルを未然に防ぐカルテの書き方』に巡り合えたことは極めて幸いです。本書は、医療安全や医療情報に造詣の深い医師や医療訴訟に詳しい弁護士の方々により執筆されたものであり、カルテ記載における重要な問題点が実に要領よくまとめられています。明確でわかりやすく、一気に通読できそうです。

また、本書は、さまざまな工夫がなされています。巻頭に疑問点マップがついており、カルテ記載における問題となる項目を検索できるようになっています。各項目では、本文の最後にまとめがついており、臨床現場に必要な知識が整理されています。さらに、各項目の関連テーマに関してcolumnがついており、普段悩ましいと思っている問題点が理解できる構成となっています。さまざまな症例提示により、カルテ記載の具体例を示してくれているのも実用的です。

本書は、研修医、若手医師、指導医、病院管理者を対象として書かれていますが、広く医療従事者の方にも読んでいただける内容となっています。カルテの質向上のためにもぜひとも活用していただきたい一冊です。



吉村 長久, 山崎 祥光 編

B5/216頁/2022年/定価3,960円(本体3,600円+税10%) / ISBN978-4-260-04806-4 / 医学書院刊